



市のふるさと納税で新たな取り組み!鯖江モデルを全国へ発信



F×G(エフ・バイ・ジー)さばえ

事業の中身に光をあて、特定の事業にふるさと納税ができます。

出身地や応援したい自治体に寄附できる「ふるさと納税」。これまで、市のふるさと納税の使い道は、教育・福祉・市民役など分野ごとの選択しかできませんでした。また、クラウドファンディング「FAAVOさばえ」は事業ごとに支援金の募集をしていましたが、寄附金ではないため、寄附控除の対象にはなりません。今回立ち上げた「F×G(エフ・バイ・ジー)」は、市がふるさと納税を活用する事業を示し、特定の事業に対して寄附してもらいます。もちろん、従来のふるさと納税と同じく、返礼品や寄附控除制度の対象となります。

「F×G(エフ・バイ・ジー)さばえ」は、「FAAVO」の運営元である「株式会社サーチフィールド」(東京)が、新しく立ち上げるふるさと納税サイト内にできる市のページです。また、株式会社福井銀行には、「FAAVOさばえ」や「F×Gさばえ」の運営協力に加え、金融機関の立場から施策提案を行ってもらうことで、官民の横のつながりを強化し、地方創生の一環として独自の「鯖江モデル」の創造を図っていきます。

8月下旬に掲載される予定の第1弾事業は「めがねロード」の整備。JR鯖江駅東口から続く地下道や歩道に、眼鏡をあしらったデザインを設置したり、街路樹の植樹マスを眼鏡のフレームの形にするなど、「隠れメガネ」を散りばめることで楽しく歩ける環境を整備し、鯖江らしいユニークなおもてなしを行うことで「めがねのまちさばえ」をアピールします。

7月6日に行われた記者会見で、牧野市長は「自治体の歳入確保へ新たな鯖江モデルとして横展開を進め、全国へのPRができれば」と意気込みを語りました。

ふるさと納税制度は返礼品に注目が集まる中、市は、自治体や自治体が力を入れる事業そのものを応援するという、ふるさと納税本来の趣旨に立ち返ることで「鯖江ファン」を増やしていきたいと考えています。



「F×Gさばえ」のサービス開始を発表した、(左から)福井銀行林正博頭取、牧野市長、サーチフィールド斎藤隆太取締役

【問合せ】 財政課 ☎53-2220



ふるさと散歩道

第261回

鯖江の近代史と歩兵第三六連隊 (九)

王山焼と琵琶焼

明治中期頃の鯖江の特産品に王山焼おうざんやきという焼き物があります。旧鯖江藩士斉藤元美が困窮する土族の生活を安定させるため、現在の惜陰小学校東北の崖を利用して窯場を築いて始めたもので、今は「古王山焼」と呼ばれています。しかし、明治二四年(一八九一)一月、濃尾地震が鯖江を襲い(震度七)、窯や店は大きな損害を受け、王山焼は廃業を余儀なくされました。

明治三〇年代になると、五十嵐小右衛門が、かつての窯場とほぼ同じ場所で王山焼の生産を再開させます。この「新王山焼」は知事や宮家・連隊長ら名士に買い上げられ、県の特産品となつて高い評判を得ましたが、明治四一年九月の出火を機に廃業に追い込まれました。

大正五年(一九一六)頃には、三六連隊の元陸軍中佐が琵琶山付近に窯場

を営し、琵琶焼が造られるようになります。しかし、経営は困難を極め、三年程で廃業となってしまいました。その後、琵琶焼技術は神明駅南踏切付近で窯を開いた前田泉岳が引き継いで、三六連隊除隊記念盃など土産物を造り、終戦まで営業が続けられました。(文化課 藤田 彩)



新王山焼(個人蔵)



古王山焼(個人蔵)